
特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本

2019年通常総会

議案書

1. 日 時 2019年6月22日（土）11：00～12：00
2. 場 所 TKP 飯田橋ビジネスセンター ホール3A
東京都新宿区下宮比町3-2 飯田橋スクエアビル3階
TEL 03-3235-2821
JR 飯田橋駅東口 徒歩3分、地下鉄飯田橋駅C1出口 徒歩1分
<https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/bc-iidabashi/access/>
3. 議 題 (1) 2018年度 事業報告
(2) 2018年度 収支決算
(3) 2019年度 事業計画
(4) 2019年度 収支予算
(5) 役員を選任

※総会終了後、13：00から同会場で
「ラムネットJ設立10周年シンポジウム〈第1弾〉」を開催します。

総会にご出席の際は本議案書をお持ちください



NPO法人 ラムサール・ネットワーク日本
〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3F
TEL/FAX 03-3834-6566 Eメール info@ramnet-j.org

2018年度 事業報告

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

1 会員数の状況 (2019年3月31日現在、カッコ内は前年度)

一般正会員 (1口5千円)	107	(117)
団体正会員 (1口1万円)	23	(22)
特別正会員 (5万円以上)	5	(5)
一般賛助会員 (1口2千円)	98	(97)
団体賛助会員 (1口1万円)	2	(2)
特別賛助会員 (3万円以上)	1	(1)
企業賛助会員 (1口10万円)	0	(0)

2 会議の開催の状況

(1) 総会・理事会

2018年

5月20日	理事会 (金沢マンテンホテル)
6月16日	総会 (豊田市自然観察の森ネイチャーセンター研修室)

2019年

3月31日	理事会 (東京・台東区いきいきプラザ)
-------	---------------------

(2) 共同代表会議・運営会議

2018年

4月12日	運営会議
5月2日	運営会議
6月8日	運営会議
7月10日	運営会議
8月2日	運営会議
9月3日	運営会議
9月27日	運営会議
11月1日	運営会議
11月29日	運営会議
12月23日	拡大共同代表会議 (東京・台東区いきいきプラザ)

2019年

1月18日	運営会議
2月15日	運営会議
3月22日	運営会議

3 事業の実施の状況

(1) 調査研究事業

2018年

- 4月13、14、20日 シギ・チドリ部会会議（福岡市、鹿島市）
- 4月17日 モニタリングサイト1000（MS1000）シギ・チドリ類調査打合せ
バードリサーチと
- 6月30日 講演会「ヘラシギとシギ・チドリ類の現状と日本からできる協力」（習志野市）
開催
- 7月1、4日 報告会「九州の干潟は渡り鳥の国際空港—今、私たちにできることは何か？」
（八代市、中津市）開催（8日に予定していた鹿島市での会合は豪雨のため中止）
- 10月1日 二国間渡り鳥保護条約・協定等支援会議
- 11月8日 東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ（EAAFP）国内
連絡会
- 11月21日 北極圏渡り鳥保護イニシアティブ（AMBI）ワークショップに向けた打合せ
- 12月3～4日 EAAFPヘラシギ特別部会会議（中国・ハイナン島）
- 12月5～8日 AMBIワークショップ（同所）
- 12月9～14日 EAAFP第10回パートナーシップ会議（同所）
- 12月19日 MS1000シギ・チドリ類調査第3期取りまとめワーキンググループ会議

2019年

- 2月2日 シンポジウム「九州から、湿地・ヘラシギ・シギ・チドリたちを守る」（福岡市）
開催
- 2月25日 MS1000検討会

(2) 保全・再生事業

2018年

- 6月6日 第64回水田決議円卓会議準備会開催
- 6月26日 第65回水田決議円卓会議準備会開催
- 7月21日 第5回生物の多様性を育む農業国際会議
分科会Ⅱ「生物多様性向上に貢献する田んぼの生きもの調査」
- 8月3日 第66回水田決議円卓会議準備会開催
- 9月28日 第67回水田決議円卓会議準備会開催
- 10月23日 ラムサールCOP13（ドバイ）でサイドイベント「水田決議の次の10年」を環境
省と共同で開催
- 11月7日 第68回水田決議円卓会議準備会開催
- 12月19日 「辺野古新基地建設・土砂投入に対する抗議声明」発表

2019年

- 1月21日 第69回水田決議円卓会議準備会開催
- 3月18日 第70回水田決議円卓会議準備会開催

(3) 普及・啓発事業

2018年

- 5月22日を中心とする4～6月 湿地のグリーンウェイブ
- 6月17日 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト地域交流会（豊田市）開催
- 11月8日 第2回田んぼの生物多様性向上とSDGs学習会開催
- 11月8日 ラムサール条約第13回締約国会議inドバイ報告会開催

2019年

- 2月3日 海の生き物を守るフォーラム2019「連続する自然としての砂浜—その過去と未来—」(大阪ドーンセンター) 後援
- 2月24日 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト全国集会(東京・八重洲) 開催
- (4) 国際協力事業
- 2018年
- 4月4日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 4月18日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 5月1日 決議等翻訳プロジェクト会議
- 5月2日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 5月16日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 5月18～20日 第13回日韓NGO湿地フォーラム(金沢市) 開催
- 6月13日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 6月20～21日 慶南ラムサール財団設立10周年記念行事(韓国・チャンウォン)
- 6月27日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 7月11日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 7月15日 第14回日韓NGO湿地フォーラム打合せ(韓国・釜山)
- 7月18日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 8月8日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 8月14日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 8月17日 決議等翻訳プロジェクト会議
- 9月4日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 9月6～7日 シンポジウム「偉大なる飛行:ファソン干潟・人々と鳥たちに」(韓国・ファソン)
- 9月8～9日 日中韓IUCN会員会合(中国・北京)(参加:呉地・安藤)
- 9月12日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 10月2日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 10月15日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 10月16日 ユースラムサールジャパンとの意見交換
- 10月17日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 10月21～29日 ラムサールCOP13(ドバイ) 参加
会期中WWNとしてNGO会議を毎朝実施
- 10月22日 WWN主催プレ・ラムサールCOP世界NGO会議(UAE・ドバイ)
- 10月26日 ラムサールCOP13(ドバイ)でサイドイベント「水の自然な流れ—条約の決議・指針は効果的に実施されているか」をKWNN、WWNと共同で開催
- 11月28日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 12月6日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 2019年
- 1月23日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)
- 2月27日 WWNスカイプ会議(マネジメント委員会)
- 3月2、3日 KWNNと第14回日韓NGO湿地フォーラムに関する打ち合わせ(韓国・釜山)
- 3月11日 WWNスカイプ会議(アジア地域代表会議)

(5) ネットワーク推進事業

2018年

4月5日	ラムネットJニュースレター第31号発行
7月17日	田んぼ10年だより第13号発行
7月25日	ラムネットJニュースレター第32号発行
11月16日	ラムネットJニュースレター第33号発行
12月26日	田んぼ10年だより第14号発行

2019年

1月28日	ラムネットJニュースレター第34号発行
3月27日	田んぼ10年だより第15号発行

4 助成金・受託事業の状況

- (1) 地球環境基金 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト
2018年4月～2019年3月 6,000,000円
- (2) 経団連自然保護基金 シギチ・ヘラシギプロジェクト
2018年4月～2019年3月 1,000,000円

5 組織構築の到達点・課題

(1) 会員数の動向

長期的に見て会員数は増加傾向であるが、2018年度は鈍化している。

地域で湿地と生物多様性の保全に取り組む団体・個人を結ぶネットワークを構築する上で重要な団体会員が増えていないことから、新しい活動団体を取り込めていない可能性がある。

(2) 組織運営

組織運営や事業執行および予算執行についての集团的検討が遅れている。

(3) 財務状況

大口の寄付金と助成金に頼った財務状況となっている。

2018年度事業報告（プロジェクト別）

(1) 調査研究事業

●シギ・チドリ部会

2018年度は経団連自然保護基金助成による、ヘラシギ、シギ・チドリ類とその生息地保全のための国内プロジェクトの最終年であった。プロジェクトは、シギ・チドリ類の重要な中継地でもある有明海の3つのラムサール条約湿地を中心に、東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ(EAAFP)のヘラシギ特別部会の重要メンバーを九州の重要な中継地に招き、絶滅が危惧されるヘラシギやシギ・チドリ類に情報交換を行ない、保全の動きを国内で進めることを目的として実施してきた。2018年度は同特別部会事務局次長をバングラデシュから招いた。東京湾谷津干潟、熊本県球磨川河口、大分県中津干潟で交流と情報共有を行なった。鹿島干潟でのイベントは、あいにくの集中豪雨のため中止せざるを得なかったが、市の行政担当者と共同で準備をすることができた。

●東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ (EAAFP)

2018年度は12月9－16日に第10回パートナー会議 (MOP10) が中国・ハイナン島で行われた。ラムネットJからガンカモ類専門家とヘラシギ専門家の2名が参加した。EAAFPヘラシギ特別部会は、MOP10前に同所で北極評議会の北極圏渡り鳥イニシアティブ AMBIの作業部会に併せて開かれた。AMBI作業部会ではコクガンをも対象とすることとなった。複数機関の関与で水鳥保全の取り組みの進展が期待される。国際的な枠組みの中でも、現場のNGOの役割は大きい。

[訃報] 2018年3月からEAAFP事務局長となったルウェリン・ヤン博士が2019年3月5日公務出張中心臓発作により急逝された。ラムサール条約事務局アジア太平洋地域上級諮問官などとして、フライウェイ、日本の湿地保全にも心を砕いてくださった。日韓フォーラムでのNGOを応援する発言は参加者の記憶に深く刻まれている。博士の永遠の安らぎを。

●モニタリングサイト 1000 (MS1000)

2018年度は12月19日に2013年から2017年までの第3期が終了したことに伴って、第3期の取りまとめに関するワーキンググループがもたれ、シギ・チドリ類調査検討会が2月25日に東京都で行われた。ワーキンググループによる分析は前2期に比して全般的に減少傾向となっていることが確認された。

(2) 保全・再生事業

●沖縄部会

2月に行われたラムサール条約プレCOPにて、COP13でのブルーカーボン決議を意識し、辺野古の海草藻場に焦点を置き、沖縄の干潟の状況を伝えた。昨年12月の土砂投入開始時には辺野古新基地建設・土砂投入に対する抗議声明を公表した。

泡瀬干潟では、ここ3年間ほど2－4月にホソエダアオノリ等の藻類が大発生し、貝類やサンゴ類が死滅するという現象が起きている。ホソエダアオノリの分布調査を行い、結果をもとに沖縄県自然保護課・港湾課、沖縄総合事務局を訪れ、対策を求めた。

沖縄県自然保護課に2021年の泡瀬干潟のラムサール条約登録が実現するよう、早期に特別鳥獣保護区設定を求める働きかけを行っている。

●田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト

・国内での活動報告

参加団体／個人数が、250程となった。新戦略策定に向け、SDGs等の学習会を2回、作業部会を4回開催。田んぼ10年プロジェクトの地域集会1回 (豊田市、参加者50名以上)、地域交流会2回 (佐久市、大潟村)、全国集会1回 (東京) を開催。生物の多様性を育む農業国際会議 (ICEBA2018) を共催し、水田の生物多様性の分科会 (参加者50名以上) を主宰した。

・国際的な活動

ラムサール条約第13回締約国会議 (10月、ドバイ) に参加し、日韓政府、慶尚南道ラムサール環境財団と共催し、FAO、ウガンダ政府等の参加も得て公式サイドイベントを開催 (参加者80名以上) し、会議期間を通じブース展示も行った。

フィリピン・イフガオ州バナウエの棚田で田んぼの生物予備調査、イフガオ大学、フィリピン大学、現地農家などとの意見交換、ヒヤリングを行った (11月)。イラン・アンザリ湿原での調査・意見交換

は、政情不安のため中止した。

「田んぼ10年だより」を3回発行、MLでの情報共有、専用HPの更新も行った。水田部会を7回開催、農水省、環境省、国交省との水田決議円卓会議準備会を、7回（のべ70回）開催、水田の生物多様性に関わる多様な議論と提案を行った。にじゅうまるプロジェクト会議に定期参加した。水田の生物多様性のポスターが国外（ドバイ、フィリピンなど）国内の各種集会等で掲示され有効に活用された。

●条約湿地50から100へ

10月18日付けで登録された葛西海浜公園（葛西三枚洲）のラムサール条約への登録活動を支援した。ラムサール条約COP13では、日本野鳥の会東京とともに、葛西海浜公園の広報に努めた。また、ラムサール条約推進国内連絡会議（2018年12月21日）およびラムサール条約登録湿地関係市町村連絡会議（2018年11月1日、学習・交流会11月2日）に参加した。

●プロジェクトワイズII（Project WISE II）

HSBC コーポレート・サステナビリティ部からの支援5年目となった2018年度は、Project WISE II（Sustainable and Wise Use of Wetlands through Social Enterprises in Japan）と題して、12団体による国内の湿地保全を目的とした社会的企業活動を支援した。パートナー団体は、前年同様、特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合（WIJ）をお願いした。

No.	活動場所	団体・組織名
1	埼玉県ほか 田んぼ	いきもの係
2	大崎市	NPO田んぼ（伊豆沼農産）
3	渡良瀬遊水地	わたらせ未来基金
4	中池見湿地	NPO法人中池見ねっと
5	豊岡市ハチゴロウ戸島湿地	コウノトリ湿地ネット
6	吉野川河口	とくしま自然観察の会
7	和白干潟	ウエットランドフォーラム
8	福岡湾	ふくおか湿地保全研究会
9	有明海	有明海漁民・市民ネットワーク
10	河北潟	河北潟湖沼研究所
11	上三川町	グリーンオイル・プロジェクト（民間稲作研究所）
12	大崎市	蕪栗ぬまっこくらぶ

(3) 普及・啓発事業

●湿地のグリーンウェイブ（WGW）

2018年4月～7月をキャンペーン期間として呼びかけ、全国19の都道府県より44団体（主催団体）56タイトルのイベントが参加、全国のイベントリストをリーフレットに掲載し各地に配布した。またホームページではイベント情報だけでなく各団体や湿地の情報も合わせて紹介した。

このうち、6/15までに開催されるイベントについては、国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）のグリーンウェイブ本体にも登録し、IUCN-J日本委員会が主催する「にじゅうまるプロジェクト」への登録も行った。

また、各地からいただいた各イベントの報告は、湿地のグリーンウェイブのホームページ内にて報告した。

2019年3月18日、UNDB-Jより「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナーに任命された。
なお、湿地のグリーンウェイブ2018へは株式会社アレフより協賛金のご支援をいただいた。

(4) 国際協力事業

●世界湿地ネットワーク (WWN)

2018年度は10月21-29日の第13回ラムサール条約締約国会議(ラムサールCOP13)の準備とネットワークの2016-2018年の戦略計画の評価検討が主である。COP13に向けては、決議案を草の根NGOの立場から分担して検討し、冒頭のステートメント、会議、サイドイベント等の活動もこの立場から臨み、WWNに対する認識は前回より高まった。プレCOP NGO会議はラムネットJの事務的準備を行なった。2018年度は2016年からのWWN戦略計画の評価を行った。組織運営に関しては前進したが広報の面での改善が必要であるとされた。市民科学による湿地調査のプロジェクトは良い結果が得られ、まもなく学術論文として発表される。水の自然な流れに関してはCOP14への働きかけに繋がるものが積みあげられている。

●日韓湿地 NGO の協力

第13回日韓NGO湿地フォーラムは、5月18日に河北潟の現地視察をした後、19日と20日にフォーラムを行った。WWNは今回議長のルイズ・ダフ氏を含めて3人がインターネットを通じて参加した。現地協力の河北潟湖沼研究所の国営干拓事業で淡水化された河北潟の地道な取り組みと汽水化を含む今後のビジョンに関する発表は水の自然な流れに関わる流域再生の取り組み事例として、ラムネットJの今後へのインパクトは大きい。

韓国における第14回フォーラムの準備に、副代表・事務局次長の6人がこれまで仲介してきた事務局長と共同代表と共に訪韓し、話しあった。

●翻訳プロジェクト

ラムサールCOP13における“水の流れ”サイドイベント開催のため、従来のCOP決議のうちから水の流れに関係する決議の洗い出しをした。また、そのうち、COP11以降の決議で邦訳が存しないものについて、一部は翻訳を進めた。

(5) ネットワーク推進事業

●ニュースレター

2018年度はニュースレターを4回発行した(31号~34号)。主な記事としては、「いまこそ「開門」の声を大きく」「辺野古の新基地建設工事による環境への影響」「報告：ラムサール条約COP13(UAE・ドバイ)」「豊岡の条約湿地拡大とコウノトリの現状について」など。毎回、1000部程度印刷し、会員や関連団体に郵送したほか、各種イベントでの配布も行った。ラムサール条約COP13期間中は「ドバイ・レポート」として現地速報のニュースをPDFで3回発行しメーリングリストで配信した。

2018年度 収支決算

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

貸借対照表

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本
全事業所

[税込] (単位: 円)
2019年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	484,072
現 金	80,507	流動負債 計	484,072
普通 預金	5,500,296	負債合計	484,072
現金・預金 計	5,580,803	正 味 財 産 の 部	
(売上債権)		【正味財産】	
未 収 金	1,438,888	前期繰越正味財産額	4,919,914
売上債権 計	1,438,888	当期正味財産増減額	1,615,705
流動資産合計	7,019,691	正味財産 計	6,535,619
		正味財産合計	6,535,619
資産合計	7,019,691	負債及び正味財産合計	7,019,691

財 産 目 録

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本
全事業所

[税込] (単位: 円)
2019年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現 金	80,507
普通 預金	5,500,296
郵便口座	(182,728)
みずほ銀行	(54,525)
三菱UFJ銀行	(5,022,892)
りそな銀行	(240,151)
現金・預金 計	5,580,803

(売上債権)

未 収 金	1,438,888
Paypal	(22,888)
地球環境基金	(1,016,000)
企業協賛金	(400,000)
売上債権 計	1,438,888

流動資産合計

7,019,691

資産の部 合計

7,019,691

《負債の部》

【流動負債】

未 払 金	484,072
柏木実	(42,231)
呉地正行	(18,240)
矢嶋悟	(22,300)
クロネコヤマト	(37,966)
松本悟	(54,720)
後藤尚味	(690)
G's Green Lab	(218,425)
原野好正	(30,680)
上野山雅子	(30,960)
永井光弘	(27,860)
流動負債 計	484,072

484,072

負債の部 合計

484,072

正味財産

6,535,619

活 動 計 算 書

〔税込〕(単位：円)

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日

	特定非営利活動に 係る事業	その他の事業	合計
【経常収益】			
【受取会費】			
受取会費	872,000		872,000
【受取寄付金】			
受取企業協賛金	500,000		500,000
受取特別協賛金	320,000		320,000
受取寄付金	5,590,778		5,590,778
【受取助成金等】			
受取助成金	6,187,000		6,187,000
【その他収益】			
受取 利息	46		46
雑 収 益	47,000		47,000
経常収益 計	13,516,824	0	13,516,824
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
臨時雇賃金	416,000		416,000
人件費計	416,000	0	416,000
(その他経費)			
業務委託費	1,791,250		1,791,250
諸 謝 金	313,000		313,000
印刷製本費	332,722		332,722
会 議 費	185,048		185,048
旅費交通費	5,377,831		5,377,831
通信運搬費	309,795		309,795
消耗品 費	30,620		30,620
修 繕 費	23,760		23,760
賃 借 料	469,398		469,398
保 険 料	69,880		69,880
諸 会 費	20,000		20,000
租税 公課	600		600
新聞図書費	17,564		17,564
接待交際費	7,668		7,668
支払手数料	28,254		28,254
雑 費	5,914		5,914
その他経費計	8,983,304	0	8,983,304
事業費 計	9,399,304	0	9,399,304
【管理費】			
(人件費)			
法定福利費	107		107
人件費計	107	0	107
(その他経費)			
事務委託費	648,750		648,750
印刷製本費	77,418		77,418
旅費交通費	761,580		761,580
通信運搬費	149,836		149,836
消耗品 費	15,493		15,493
地代 家賃	480,000		480,000
賃 借 料	269,878		269,878
諸 会 費	76,601		76,601
租税 公課	1,500		1,500
支払手数料	20,652		20,652

活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日

その他経費計	2,501,708	0	2,501,708
管理費 計	2,501,815	0	2,501,815
経常費用 計	11,901,119	0	11,901,119
当期経常増減額	1,615,705	0	1,615,705
【経常外収益】			
経常外収益 計	0	0	0
【経常外費用】			
経常外費用 計	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	1,615,705	0	1,615,705
当期正味財産増減額	1,615,705	0	1,615,705
前期繰越正味財産額	4,919,914	0	4,919,914
次期繰越正味財産額	6,535,619	0	6,535,619

財務諸表の注記

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

2019年 3月31日 現在

【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

【事業費の内訳】

次ページ以降の「事業費の内訳」の通りです。

【用途等が制約された寄付等の内訳】

[税込] (単位: 円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
日韓フォーラム2018	275,000	160,000	435,000	0	
沖縄部会	98,500	0	0	98,500	匿名希望 (辺野古基地反対)
湿地のグリーンウェイブ	26,101	0	26,101	0	2018年度 支出41,198円
ラムCOP特別協賛金	0	160,000	160,000	0	
合計	399,601	320,000	621,101	98,500	

事業費の内訳

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

2019年 3月31日 現在

(1/3)

[税込] (単位: 円)

科目	調査研究事業	保全・再生事業			
	シギ・チドリ	沖縄部会	田んぼ10年	ICEBAいすみ	プロジェクトワイズ
(人件費)					
臨時雇賃金(事業)			322,000		
人件費計	0	0	322,000	0	0
(その他経費)					
業務委託費(事業)	147,750		315,000	24,000	140,250
諸謝金(事業)	20,000		173,000		
印刷製本費(事業)	9,151		124,576		
会議費(事業)	19,569		23,372		
旅費交通費(事業)	835,657		1,596,337	38,434	
通信運搬費(事業)	3,190		95,026		
消耗品費(事業)	5,734		8,054		
修繕費(事業)	23,760				
賃借料(事業)	37,260		207,465		
保険料(事業)	14,280				
諸会費(事業)				20,000	
租税公課(事業)	600				
新聞図書費(事業)			17,564		
接待交際費(事業)			7,668		
支払手数料(事業)	2,074		11,824	432	
雑費(事業)	5,914				
その他経費計	1,124,939	0	2,579,886	82,866	140,250
合計	1,124,939	0	2,901,886	82,866	140,250

(2/3)

[税込] (単位: 円)

科目	普及・啓発事業		国際協力事業		
	グリーンウェイブ	にじゅうまる	国際協力	日韓・WWN	翻訳プロジェクト
(人件費)					
臨時雇賃金(事業)			94,000		
人件費計	0	0	94,000	0	0
(その他経費)					
業務委託費(事業)	4,500		233,250	536,500	
諸謝金(事業)			20,000	100,000	
印刷製本費(事業)	26,560		26,000	42,818	
会議費(事業)				142,107	
旅費交通費(事業)			2,167,590	739,813	
通信運搬費(事業)	14,400		76,217	3,674	
消耗品費(事業)			2,224	12,131	
修繕費(事業)					
賃借料(事業)			132,573	92,100	
保険料(事業)			52,210	3,390	
諸会費(事業)					
租税公課(事業)					
新聞図書費(事業)					
接待交際費(事業)					
支払手数料(事業)	238		10,106	3,580	
雑費(事業)					
その他経費計	45,698	0	2,720,170	1,676,113	0
合計	45,698	0	2,814,170	1,676,113	0

科目	保全・再生事業、国際協力事業共通	ネットワーク推進事業	合計
	田んぼ10年、国際協力共通	ニューズレター	
(人件費)			
臨時雇賃金(事業)			416,000
人件費計	0	0	416,000
(その他経費)			
業務委託費(事業)	390,000		1,791,250
諸謝金(事業)			313,000
印刷製本費(事業)	13,617	90,000	332,722
会議費(事業)			185,048
旅費交通費(事業)			5,377,831
通信運搬費(事業)	14,952	102,336	309,795
消耗品費(事業)	2,477		30,620
修繕費(事業)			23,760
賃借料(事業)			469,398
保険料(事業)			69,880
諸会費(事業)			20,000
租税公課(事業)			600
新聞図書費(事業)			17,564
接待交際費(事業)			7,668
支払手数料(事業)			28,254
雑費(事業)			5,914
その他経費計	421,046	192,336	8,983,304
合計	421,046	192,336	9,399,304

2019年5月11日

特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本

代表理事 安藤 よしの様
代表理事 柏木 實様
代表理事 呉地 正行様
代表理事 堀 良一様
代表理事 前川 盛治様

監査報告書

当法人の2018年度（2018年4月1日から2019年3月31日）の理事の業務執行の状況および、この法人の財産の状況について監査を行いました。理事の業務の執行に関しては、事業報告書および理事会に出席して、都度、業務内容を確認し、財産の状況については、財産目録、貸借対照表、活動計算書および通帳等を閲覧、照合して確認しました。

監査の結果、当法人の業務は、法令及び定款に基づき適正に執行され、会計処理も適正なものであることを認めます。

特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本

監事

大村



監事

2019年度 事業計画

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

(1) 調査研究事業

●シギ・チドリ部会

2019年3月で経団連自然保護基金からの援助は3年間で終了したため、今年度の申請は行なわなかった。しかし、シギ・チドリ類、ヘラシギ保全の活動を少しでも進めるため、年度途中で経団連自然保護基金以外の助成金の申請を計画している。

2017年度に実施した越冬地へのツアーを計画する。

*予算50万円

(2) 保全・再生事業

●沖縄・開発問題部会

1) 不要不急の開発による湿地破壊が止まらない。これらは何れも水の自然な流れを阻害する構造物建設に起因していることから、ラムネットJでは「水の自然な流れを守る」プロジェクトを進めている。そこで、今期より、部会の対象を沖縄から全国の開発問題に広げることを提案する。

2) 「水の自然な流れを守る」をキーワードに、各地の問題湿地とつながって諸活動を行う。

①複式干拓が行われている地域の市民と交流し、開門の重要性が広く認知されるようCEPA活動を行っていく。

②埋め立てによって海流が変化し沿岸湿地が劣化することは、泡瀬干潟や博多湾の人工島建設等からも証明されている。これ以上の湿地破壊が行われないよう諸活動を行う。

③ダム・堰による湿地破壊も深刻である。新規の建設を阻止すると共に、ダム・堰の撤去や水門開放を求めて、地域の市民と交流を進める。

3) 日本の砂浜が減っている。気候変動の影響で日本の砂浜の9割が21世紀末までに消失するという予測もある。それにも関わらず、砂は相変わらずコンクリートの骨材や埋め立て資材等に使われている。砂浜を失うような形の巨大防潮堤建設や護岸建設なども日本各地で進められている。砂浜の重要性が広く認識されるよう、CEPA活動を進める。

4) 泡瀬干潟（沖縄）、大浦川河口（沖縄）、表浜（愛知）をCOP14にてラムサール条約湿地に登録することをめざして諸活動を行う。

*予算10万円

●田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト

・国内での活動

田んぼ10年プロジェクトの全国集会（1回）、地域交流会（敦賀市・11月）、地域意見交換会（四国2回、宮城2回）の開催。ポスターとパンフレットを作成し、地域集会などで有効活用する。

田んぼ10年プロジェクトの内部評価を実施し、課題を抽出し、新行動計画書案作成に着手する。

「田んぼ10年だより」を3回発行。HPのシステム変更と更新（年6回）。MLでの情報提供と有効活用。

ラムネットJ 水田部会開催（年8回）。水田決議円卓会議準備会開催（ラムネットJ、環境省、農水省、国交省；年8回）。にじゅうまる COP4およびプロジェクト会議（10回）参加。

● **国際的な活動**

国際会議への参加：IUCN 地域会合（パキスタン）。CBD 補助機関 SBSTTA 会合（カナダ）。

国外での田んぼの生き物調査・交流：韓国で田んぼの生きもの調査（8月）。イフガオ州 Batad 棚田での本格調査と意見交換、ヒヤリング。（フィリピン、8-9月）。アタリ地区での水田生物調査と意見交換（ウガンダ）。

* 予算 650 万円

● **登録推進・条約実施**

ラムサール条約 COP14 およびその後の新規の条約登録にむけて地域活動を支援する。また、条約湿地および保全が必要な湿地の維持・管理や利用計画について、環境省や自治体等へ働きかけを行う。

* 予算 10 万円

(3) **普及・啓発事業**

● **湿地のグリーンウェイブ（WGW）**

現在開催中の湿地のグリーンウェイブ 2019（4月～7月）は、59のイベントが参加し（5/28時点）、合わせて国連生物多様性の10年日本委員会のグリーンウェイブ（6/15までに開催分）、またにじゅうまるプロジェクトにも参加登録している。今期のキャンペーン期間中には、湿地のグリーンウェイブのHPの他にも、メールやSNSを活用した広報を行っている。

湿地のグリーンウェイブ報告書 2018 を発行予定（6月）。

2020年1月名古屋国際会議場にて開催される「にじゅうまる COP4」の分科会にて報告会を開催予定。今後、CEPA としての機能を強化するために、本事業の見直し、2020年以降の計画を策定していく。

* 予算 20 万円

(4) **国際協力事業**

● **世界湿地ネットワーク（WWN）・国際協力部会**

2019年からの新たな戦略計画の策定に注力する。

● **日韓湿地 NGO の協力**

「水の自然な流れ」のテーマを継続してラムサール COP14 にむけ、準備を行う。8月末には10周年記念行事の一環として実施するニック・デイビッドソン博士を招いて行う条約決議実施をテーマとしたシンポジウムを行い、11月末に韓国で第14回日韓 NGO 湿地フォーラムを予定している。

● **翻訳プロジェクト**

ラムサール条約締約国会議の決議が日本語でアクセス可能であることは、CEPA 活動や政府との交渉等において極めて重要である。しかしながら、COP11（ルーマニア）以降は決議のうちのごく一部しか邦訳されていない。特に、COP13（ドバイ）では、泥炭湿地、ブルーカーボン、潮間帯湿地、湿地の中での農業及びウミガメ保護に関し、重要な決議が多数採択されている。これら主要なものだけ

でも今年度中にはラムネットJとしての邦訳を成し遂げる。併せて、今年度は、若手を中心にメンバーを拡充し、邦訳作業の担い手を増やす努力を行う。

数値目標としては、上記5本の決議の邦訳を目標とする。

* 予算60万円（国際協力事業合計）

(5) ネットワーク推進事業

●ニュースレター

昨年度と同様に、2019年度も4回発行する（4月初旬、7月初旬、10月初旬、1月初旬）。各地の関連団体や施設などにも積極的に送付して、配布を依頼し、ラムネットJの組織・活動の周知や会員の拡大を図る。

* 予算20万円

●ホームページ

ラムネットJのホームページで使用している管理ソフトが古くなり、サポートも終了しているので、新しいソフト（フリーウェア）への移行が必要となってきた。今年はその移行作業に取り組む。

(6) 設立10周年事業

●シンポジウム

ラムネットJは、本年4月に設立から10年を迎えた。これを記念して2つのイベントを企画している。

1) ラムサール・ネットワーク日本10年 成果と課題

前半は10年間の活動を振り返る。後半は地域からの報告をベースに、地域が期待していることやラムネットJの目標を如何に実践していくか考えていく。

2) 水の自然な流れを守るために～ラムサール条約の実施とNGOの役割～

前・ラムサール条約事務局次長のニック・デイビッドソン氏を迎えて、ラムサール条約を活かすにはどうしたらよいのか、ラムサール条約の現場での実践とNGOの役割についてご講演いただく。そして、日本、韓国をはじめとするNGOの取り組みについて報告し、水の自然な流れを守っていくための行動計画を話し合う。

●冊子・アーカイブ

設立10周年を記念して、10年間の振り返る冊子を作成して関係者に配布するとともにPDF化してホームページ等で公表する。また、10年間の活動の資料は膨大なため、アーカイブ化してホームページにアップし、希望者がダウンロードできるように整理する。

* 予算120万円（設立10周年記念事業合計）

(7) 組織構築の課題への取り組み

1) 組織の拡大

地方組織への呼びかけを強める。そのためのパンフレットを作成する。

2) 運営態勢の見直し

組織診断の手始めとして、内部評価委員会を理事会内につくる。

3) 財務状況の改善

理事会内に、広く集める寄付金、協賛金を増やす取り組みを強化する部門を設ける。また、2018年度まで続いていた大口寄付が2019年度からなくなるので2018年度の大口寄付金額500万円が2019年度については減額になるところ、2019年度はその余の寄付につき100万円増額を目指して2019年度収支予算書中の2019年度予算の受取寄付金額を200万円とし、前年度との比較欄（次ページ）では400万円の減額と記載している。

2019年度 収支予算

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

I 経常収益

科目	2019年予算 (A)	2018年予算 (B)	比較 (A-B)	2018年度決算	備考
受取会費	950,000	900,000	50,000	872,000	
受取寄付金	2,000,000	6,000,000	△ 4,000,000	6,410,778	2019年度事業計画 (7) 3) 参照
受取助成金等	7,200,000	7,000,000	200,000	6,187,000	JFGE 600万円 GGF 70万円 未定50万円
その他収益	200,000	100,000	100,000	47,046	
経常収益計 (a)	10,350,000	14,000,000		13,516,824	

II 経常費用

1 事業費					
(1) 調査研究事業	500,000	1,200,000	△ 700,000	1,124,939	
(2) 保全・再生事業	6,700,000	7,400,000	△ 700,000	3,335,525	
(3) 普及・啓発事業	250,000	350,000	△ 100,000	45,698	
(4) 国際協力事業	600,000	1,800,000	△ 1,200,000	4,700,806	
(5) ネットワーク推進事業	200,000	200,000	0	192,336	
(6) 設立10周年事業	1,200,000	0	1,200,000	0	
事業費計	9,450,000	10,950,000	△ 1,500,000	9,399,304	
2 管理費					
(人件費)					
賃金、法定福利費等	5,000	0	5,000	107	
(その他経費)					
事務委託費	650,000	600,000	50,000	648,750	GG-lab 管理費分のみ ※2、※3
印刷製本費	80,000	70,000	10,000	77,418	コピー機使用料など
会議費	0	30,000	△ 30,000	0	
旅費交通費	750,000	400,000	350,000	761,580	理事会旅費など
通信運搬費	150,000	130,000	20,000	149,836	
消耗品費	20,000	50,000	△ 30,000	15,493	
地代家賃	480,000	480,000	0	480,000	事務所光熱費含む
賃借料	250,000	20,000	230,000	269,878	会議室使用料など
新聞図書費	5,000	5,000	0	0	
保険料	0	5,000	△ 5,000	0	
諸会費	80,000	140,000	△ 60,000	76,601	
租税公課	5,000	5,000	0	1,500	
支払手数料	25,000	50,000	△ 25,000	20,652	
雑費	5,000	5,000	0	0	
管理費計	2,505,000	1,990,000	510,000	2,501,815	
経常費用合計 (b)	11,955,000	12,940,000		11,901,119	

当期増減額 (a-b)	△ 1,605,000	1,060,000		1,615,705	
前期繰越額	6,535,619	4,919,914		4,919,914	
次期繰越額	4,930,619	5,979,914		6,535,619	

事業費 (予算・見込み) の内訳

事業名	総額	事業名	金額	見合いの収入
(1) 調査研究事業	500,000	シギ・チドリ部会	500,000	助成金 (未定) 50万円
(2) 保全・再生事業	6,700,000	沖縄・開発問題部会	100,000	指定寄付10万円 (繰越)
		田んぼ10年プロジェクト	6,500,000	JFGE 600万円、企業寄付金から50万円
		登録推進・条約実施	100,000	
(3) 普及・啓発事業	250,000	湿地のグリーンウェイブ	200,000	
		普及啓発のための諸活動	50,000	
(4) 国際協力事業	600,000	WWN、日韓湿地NGOの協力、翻訳	600,000	
(5) ネットワーク推進事業	200,000	ニュースレター、ホームページ	200,000	
(6) 設立10周年事業	1,200,000	シンポジウム、冊子・アカイブ	1,200,000	GGF 70万円、協賛金30万円、参加費20万円

※ JFGE : 地球環境基金、GGF : Global Greengrants Fund、WWN : 世界湿地ネットワーク、GG-lab : ジーズグリーンラボ (後藤)

※2 2018年度決算 業務委託費 (GG-lab) 総額 : 244万円。うち事業費 (業務委託費) 約179万円 : 該事業に按分、管理費 (事務委託費) 約65万円。

※3 2019年度予算 業務委託費 (GG-lab) 総額 : 250万円。うち事業費 (業務委託費) 約185万円 : 該事業に按分、管理費 (事務委託費) 約65万円。